

骨・関節 X 線写真の撮りかたと見かた 第 8 版

堀尾重治 ● 著

〔評者〕北山 彰 (川崎医療短大准教授・放射線画像検査学)

『骨・関節 X 線写真の撮りかたと見かた』の第 8 版が発刊された。本書で自らが学び、かつ大学教育で使用させていただいている読者の一人として、本書の感想を述べてみたい。

画像診断では、一枚の画像からそこに隠された多くの情報を読み取ることが必要である。そのためには三次元の正確な正常解剖はもとより、そこに生じる疾患の形態学的特徴を熟知する必要がある。本書は画像検査法の技術的理論に基づいて、画像を読影するための基本的な人体解剖と、そこに発生する疾患の病理病態をわかりやすく教えてくれる。

本書の特筆すべきことは、すべての画像がスケッチで描かれていることである。この種の書物では、通常は単純 X 線画像にしても X 線 CT 画像、MRI 画像にしても、実際の臨床画像が掲載されるが、本書ではすべての画像が著者による詳細かつ的確で美しい細密画で描かれているのである。初めて見る読者は、多少、奇異に思われるかもしれないが、これには著者のこの本に対する真摯な姿勢と一つの重要な思いが込められている。

実際の臨床画像では、写真濃度、コントラスト、解像度、粒状性などの画像因子、または、撮影時の整位などによって画像の良し悪しが左右される。しかも適正な画像であるからといって、目的とする

観察部位がその画像の中で障害陰影もなく明瞭に観察されるとは限らない。放射線画像のスペシャリストである著者はそのことを熟知しており、本書ではあえてすべての画像を細密画に置き換えることによって、実際の画像では観察しにくい構造物も詳細かつ明瞭に描出し、読者に理解しやすく、わかりやすいように工夫しているのである。ここまで画像の掲載にこだわり、時間を費やして、読者の立場に立って画像が描かれ、掲載された書籍は私の知る限り他に類をみない。

この本の著者、堀尾重治氏の初めての著書が 1971 年に発刊された『骨単純撮影法と X 線解剖図譜』(医学書院)である。A 4 判 306 頁からなる大きな書籍であるが、著者の美しく正確な X 線画像の細密画と解剖図の数々に目が引き留められる。今回紹介する『骨・関節 X 線画像の撮りかたと見かた』の原点がここにあることがわかる。

今回の第 8 版の発刊は、1986 年の初版発刊から 24 年が経過して 7 回目の改訂となる。このことは、この本が近年の画像検査法、画像モダリティのすさまじい進歩にもよく対応し、内容が古くなることなく、多くの読者に愛され、読み続けられてきたということを如実に示している。実際にそれぞれの改訂によって、順次、X 線 CT 画



像、MRI 画像が追加され、それに伴い、骨から筋肉、神経へと領域が広がり、それらに関係した疾患、病態画像の追加が行われ、内容の充実が繰り返されてきた。特に今回の第 8 版では、病理変化から画像に生じる微妙な濃度変化に関係した項目が重点的に追加されている。

本書は今までと同様に、また、さらに多くの整形外科、画像診断をめざす医学生およびかけだしの医師、そしてこの領域の画像検査に携わる診療放射線技師に、良い教科書・参考書として喜んで受け入れられることを確信する。私は本書に医学と撮像技術の融合をみたような気がする。

B5 頁 480 2010 年
定価 6,510 円(本体 6,200 円+税 5%)
医学書院 刊